



試奏：Jun Kawai

アストリア・シリーズを全機種試奏！

マーシャルから 良音のブティック・アンプ、 アストリアが登場！

話題の新製品や注目の楽器をレポートするWeROCK 的楽器試奏会。今回は、今年1月のNAMMショウでも注目を集めた、マーシャルが送るブティック・アンプ、アストリアに迫る！ 気になるそのサウンドは？



- (ヘッド/コンボ共通仕様) ●
- 出力：30w ●真空管：ECC83 (12AX7) ×3(プリ管)、KT66×2(パワー管) ●チャンネル数：1
- コントロール：マスター(パワー・リダクション・スイッチ兼用)、センシティビティ、トレブル、ミドル、ベース、エッジ ●入出力端子：ハイ、ロー、スピーカー・アウト(1×4Ω / 2×8Ω、1×8Ω / 2×16Ω、1×16Ω)
- (ヘッド) ●外形寸法：600(幅) ×290(高さ) ×230(奥行き) mm ●重量：16.5kg
- (キャビネット) ●スピーカー：セレッション製クリームバック(12インチ) ×1 ●外形寸法：600(幅) ×530(高さ) ×260(奥行き) mm ●重量：17kg
- (コンボ) ●スピーカー：セレッション製クリームバック(12インチ) ×1 ●外形寸法：600(幅) ×540(高さ) ×260(奥行き) mm ●重量：27.5kg

ASTORIA CLASSIC

¥325,500+税(ヘッド AST1H) / ¥95,500+税(スピーカー・キャビネット AST1-112) / ¥391,500+税(コンボ AST1C)



▲アンプ・ヘッドのコントロール・パネル。コンボもコントロール類は同じだが、配列が真逆になる



▲インプットには、ローとハイを装備している。音量の差というより、音色の変化が感じられた



▲マスター・ボリュームを引っ張ることで、出力が30wから5wになるプル・パワー・リダクションという機能を搭載



▲エッジというトーン・コントロールは、プリ段にかかりアンプ全体的な明るさを調整してくれる

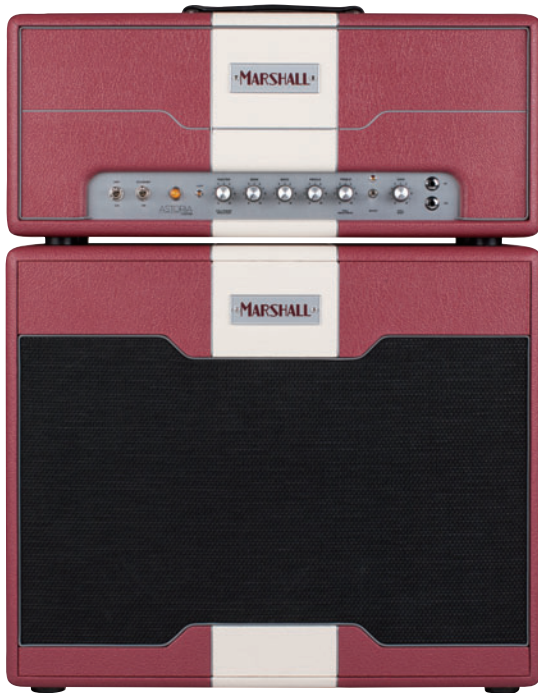


▲スピーカーは、コンボ、スタック共通で、セレッション製の12インチを採用している

マーシャルから同社初のブティック・アンプとしてASTORIA(アストリア)シリーズが発売された。ラインナップされているのはASTORIA CLASSIC(AST-1)、ASTORIA CUSTOM(AST-2)、ASTORIA DUAL(AST-3)の3機種で、出力は30w、プリ管にECC83を、パワー管にKT66を、整流管にGZ34を搭載しているのが特徴だ。

まず、CLASSICはクリーン・サウンドでの使用を想定したモデルで、真空管のクリーン・サウンドに加え、エフェクターでの音作りを重視するユーザーに向けたアンプである。チャンネルは1つとシンプルな設計になっており、コントロール部はマスター・ボリューム、ベース、ミドル、トレブルのイコライザー、さらにセンシティビ

ブティック・アンプとは？
 “ブティック”とは“小さな店”という意味だが、アンプ、エフェクター業界では、技術者やビルダーが小さな工房で、ハンドメイドによって生産した、高品質で高級な製品という意味でもおもに使われている。マーシャルという大きなメーカーが、今回のアストリアを作り出したということは、マーシャルのこだわりを感じさせてくれる。



ASTORIA CUSTOM

¥342,500+税(ヘッド AST2H) /
 ¥95,500+税(スピーカー・キャビネット AST2-112) /
 ¥408,500+税(コンボ AST2C)

〈ヘッド/コンボ共通仕様〉 ●
 出力: 30w ●真空管: ECC83
 (12AX7) ×4(プリ管)、KT66×
 2(パワー管) ●チャンネル数: 1
 ●コントロール: マスター(パワー・
 リダクション・スイッチ兼用)、エッ
 ジ、ベース、ミドル、トレブル(ブ
 ライトネス・スイッチ兼用)、ゲイ
 ン(ボディ・スイッチ兼用)、プー
 スト・スイッチ ●入出力端子: ハイ、
 ロー、レベル・コントロール付き
 エフェクト・ループ、フット・スイ
 ッチ・イン、スピーカー・アウト(1×
 4Ω / 2×8Ω、1×8Ω / 2×16Ω、
 1×16Ω) ●付属品: フット・スイ
 ッチ

〈ヘッド〉 ●外形寸法: 600(幅)
 ×290(高さ) ×230(奥行き) mm

●重量: 16.5kg
 〈キャビネット〉 ●スピーカー: セ
 レッション製クリームバック(12イ
 ンチ) ×1 ●外形寸法: 600(幅)
 ×530(高さ) ×260(奥行き) mm

●重量: 17kg
 〈コンボ〉 ●スピーカー: セレッ
 ション製クリームバック(12イン
 チ) ×1 ●外形寸法: 600(幅) ×540
 (高さ) ×260(奥行き) mm ●重
 量: 27.5kg

ティとエッジという機能も搭載。イコライザーをそれぞれ5、センシティヴィティとエッジを0の状態では、マスターを上げていくと、透き通るようなクリーン・サウンドを実現し、マスターを上げていっても軽いクランチ程度にしかならない。これはネガティブ・フィードバック(プリ部を通過した信号の一部を再びプリ部に再入力する機能)をプリ段に採用することで、大音量でもクリーンなサウンドを実現させているということだが、こうした清らかなクリーンは通常の2チャンネル、3チャンネルのアンプのクリーン・チャンネルでは体験できないという印象だ。

センシティヴィティはそのネガティブ・フィードバック回路により、パワー部を変化させずにプリ部のヴォリュームを増減できる機能で、ツマミを上げると、トーンの質を変えることなく、音に厚みを与えることが可能。エッジはフェイズ・スプリッターとパワー管の間の高周波数をカットする機能で、一般的なプレゼンスと近い効果があり、マスターを上げつつ(音量を上げるとより効果が出る)、エッジも上げていくと、鈴を鳴らしたかのようなきらびやかな音を出すことができる。イコライザーの可変幅はすごく広いというわけではないが、ウォームなトーンからシャープな音まで、上品な音作りができるようにチューニングされている。さらにマスターにはパワー・リダクション・スイッチが付いており、出力を5wに下げることが可能だ。

続いて、CUSTOMはゲイン・ツマミを搭載するなど、CLASSICをベースに歪ませることに重点を置いたアンプだ。こちらもチャンネルは1つだが、ゲインは3あたりまでは抜けのいいクリーン・サウンド、4~5ぐらいか



▲クラシックよりも多くの機能を搭載しているコントロール・パネル。それでいてシンプルだ

らクランチ、7ぐらいからオーバードライブと呼べるような歪みを実現。歪みの種類はパワー管にEL34を使った伝統的なマーシャル・サウンドとは少々異なり、粒立ちの細かさを感じさせるようなキレのある音の特徴にする。

さらにゲインにはボディという機能が付いており、ツマミを引くことで、120Hzから下の範囲で+8dBのブーストを実現。重厚な歪みに変化させることができる。さらにトレブル・ツマ

ミを引き上げるブライトネスがオンになり、4kHz以上の帯域で+6dB増加させることが可能。その名の通り明るい音に変化させることができるので、歪みを抑えてのキラキラしたサウンドや、ボディと両方をオンにしてのハイ・ゲイン・サウンドも出すことができる。

このCUSTOMのもう1つの大きな特徴はブースト・スイッチが付いていることだ。これをオンにすると、ゲインを+20dB増加させることがで



▲プリ部の歪みを調整するゲイン・コントロール。プルすることで、モダンなハイ・ゲイン・サウンドになる



▲こちらのモデルもプル・パワー・リダクション機能を装備。出力を下げても、音質の変化が少ないのはうれしい



▲ゲイン量を20%アップさせるブースト・スイッチ。オンにすると上のLEDが点灯する。別売りのフット・スイッチでの切り替えも可能だ



▲トレブルを引くことで、ブライトネスというコントロールが作動する。オンにすることで、4kHzより上の範囲が+6dBブーストしてくれる



ASTORIA DUAL

¥359,500+税(ヘッド AST3H) /
 ¥95,500+税(スピーカー・キャビネット AST3-112) /
 ¥425,500+税(コンボ AST3C)

〈ヘッド/コンボ共通仕様〉 ●
 出力: 30w ●真空管: ECC83
 (12AX7) ×4(プリ管)、KT66×
 2(パワー管) ●チャンネル数: 2
 ●コントローラ: マスター(パ
 ワー・リダクション・スイッチ兼
 用)、エッジ、ベース、ミドル、ト
 レブル、ODボリューム、ODゲ
 イン(ボディ・スイッチ兼用)、ク
 リーン・ボリューム(チャンネル切
 り替えスイッチ兼用) ●入力端
 子: ハイ、ロー、レベル・コントロ
 ール付きエフェクト・ループ、フット
 ・スイッチ・イン、スピーカー・アウ
 ト(1×4Ω / 2×8Ω、1×8Ω / 2
 ×16Ω、1×16Ω) ●付属品: フッ
 ト・スイッチ
 〈ヘッド〉 ●外形寸法: 600(幅)
 ×290(高さ) ×230(奥行き) mm
 ●重量: 16.5kg
 〈キャビネット〉 ●スピーカー: セ
 レッション製クリームバック(12イン
 チ) ×1 ●外形寸法: 600(幅)
 ×530(高さ) ×260(奥行き) mm
 ●重量: 17kg
 〈コンボ〉 ●スピーカー: セレッ
 ション製クリームバック(12インチ)
 ×1 ●外形寸法: 600(幅) ×540
 (高さ) ×260(奥行き) mm ●重
 量: 27.5kg



▲もっとも機能が豊富なアストリア・デュアルのコントロール・パネル。こちらは、ヘッドのものだ

きるので、ギター・ソロなどを弾く時には最適だ。他にもエッジ、パワー・リダクション機能に加え、CLASSICにはなかったレベル・コントロールとオン/オフ付きのトゥルー・バイパスのエフェクト・ループが搭載されているのも大きな魅力。幅広いサウンド作りを目指す人にはお勧めだ。

最後にDUALは2チャンネル仕様になったモ

デルで、マスター・ボリュームの他にクリーン・ボリューム、ODボリュームとODゲインというふうクリーンとオーバードライブにわかれてるのが特徴だ。クリーンは清らかという部分では全機種共通だが、こちらはCLASSICの柔らかさを感じさせるクリーンとは少々違い、CUSTOMのようなエッジの立ったクリーンに近



▲クリーン・ボリュームのつまみには、チャンネル切り替え機能も搭載している。プルすると切り替わる



▲ODゲインをプルすることで、カスタムと同じくモダンなハイ・ゲインのトーンに切り替わる



▲カスタムとデュアルのリア・パネルには、エフェクト・ループを装備。ループ・レベルによって、接続したエフェクターのレベルが調整可能だ



▲もちろん、30wから5wに出力を下げられるプル・パワー・リダクション機能を搭載。自宅で弾く際などに便利だが、それでも真空管ならではの音圧が感じられる!

いと言える。

歪みのチャンネルはCUSTOMと同様にODゲインを4~5あたりからクランチ、7ぐらいからオーバードライブと呼べるような音が可能

で、歪みには奥行きを感じさせつつ、キレも感じることができる。CUSTOMに付いていたブライツネスやブースト機能はないが、ODゲインにはボディ機能を備えているので、オンにすれば音圧と重厚感のある歪みを出すことが可能。他にもエッジ、レベル・コントロールとオン/オフ付きのトゥルー・バイパスのエフェクト・ループも備えており、ライブでプレイするには便利なアンプである。なお、コンボとヘッド&キャビネットでは、いずれの機種もコンボのほうが箱鳴り感があるぶん、多少広がりを感じさせるような印象だ。

アストリア・シリーズはいわゆるヴィンテージ・タイプと呼べるアンプではあるが、けてオールド・マーシャルを目指したわけではなく、オールド・アンプのテイストを持ちつつ、現代のニーズに合わせた設計になっているのが大きな特徴である。クリーンから歪みまで高品質なサウンドはまさにブティック・アンプならではのと言える。